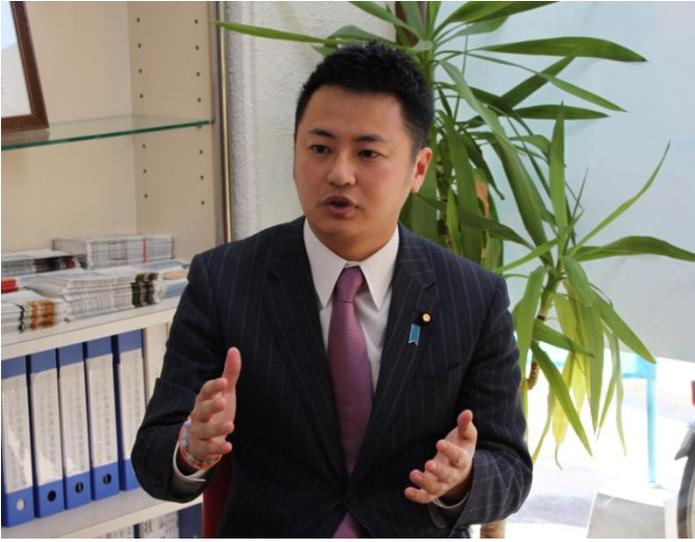


# 参議院議員 外山 イツキ 通信

## TPP について問う

○聞き手…本題に入ります前に、昨年の宮崎は、口蹄疫なくして語ることは出来ないと思います。振り返っていきましょうとお願ひします。

○外山…県選出の民主党国会議員三人で協力し、様々な要望に対処してまいりました。防疫体制の強化、補償金への非課税、民間獣医師への報酬、復興基金の設立など、早い段階からしっかりと国の方へ訴えてまいりました。前の国会から農水委員会への配属が決まり、今後も復興に向けて努力してまいります。



○聞き手…それでは本題に入りたいと思います。少し前から TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) という耳慣れない言

葉が新聞等でよく取り上げられています。TPP とはそもそもどういうものなんでしょうか？

○外山…元々は四カ国でスタートした自由貿易圏の確立を目指したもので、加盟した国々の「人・モノ・カネ・サービス」がすべてオープンになる、そういったものです。よく、TPP と EPA (経済連携協定)・FTA (自由貿易協定) が比較されますが、EPA や FTA では協定を結ぶ時に当事国同士で交渉をし、それぞれの国が主義主張できます。しかし TPP では「参加しすべてオープン」となっているため、大きなリスクを被ることも考えられます。

○聞き手…そのような TPP に対して、政府の方針はどうなっていますか？

○外山…与党内では、推進しようとする方、慎重派の方とで協議をしようという流れになっています。すべてをオープンにすることになっているが、例外は認められないのかなど、情報を集めている段階です。

○聞き手…新聞・テレビの報道を見ると、推進しようとしているように感じられます。なぜですか？

○外山…菅総理はよく「平成の開国」と言っていて、推進を考えておられます。いま国際社会においては、自由貿易協定を結ぶ動きが活発化しており、この国際的な流れに遅れてはいけないという焦りもあるのではないのでしょうか。そこで TPP に活路を求めているのは、政府だけでなく経済界も同じくそうだと感じます。

○聞き手…そのような方針に対して、外山議員は慎重に事を運ぶべきだという態

度を示しています。

○外山…TPP に限らず、貿易協定を結ぶ時にはまず国内においてきちんと対策がなされなければならぬと考えます。韓国がアメリカやヨーロッパ諸国と EPA・FTA の交渉をする際、農業対策に十年間で約九兆円という予算を付けたということがあります。日本の場合は、そのような議論もまったくなされていません。また、よくマスコミなどでは農業とその他の産業の対立という感じで書かれていますが、必ずしも農業・工業の分野だけの話ではないんです。TPP では先ほどお話しした通り、「人・モノ・カネ・サービス」すべてがオープンになるので

すから、失業率が高いこの状況下で、安い労働力が海外から入ってくると、日本人の働く場所が奪われてしまう、そういったことも十分考えられます。このようなことから考えていまの段階では TPP への参加は承認できないと考えています。

○聞き手…それでは、今後 TPP に対してどう取り組んでいかれますか？

○外山…昨年 TPP の問題が出てきた直後に、山田前農水大臣を中心に勉強会が立ち上がり、これに参加しました。これまで様々な識者の方や各省庁の職員などから話を聞き、協議を重ね、政府に対して慎重になるよう提言活動を行ってきました。その成果として政府は初めのころと比べやや慎重な態度になってきています。今後現段階では時期尚早と国民や政府に対し訴えてまいります。

○聞き手…ありがとうございます。今後の活躍を期待しています。